



ご支援、
ありがとうございます！

真宗大谷派名古屋教区内有志災害ボランティアネットワーク 発行

私たちは、2011年3月11日に発生した東日本大震災を機に、被災地の復興と、人と人とのつながりの回復を願う有志によって結成されたネットワークです。

活動支援のカンパなど、引き続き本会の活動へのご支援、宜しくお願い申し上げます。

募金は「一如さん（毎月12日）」の募金箱、もしくは下記の口座までお振込みください。

【口座名義】真宗大谷派名古屋教区内有志災害ボランティアネットワーク

【ゆうちょ銀行振替口座 口座記号番号】00800-8-174946 【支店名】名古屋橋

最近の活動報告

【東日本大震災追弔法要&勿忘の鐘&語り合い】

日時 2015年3月11日

場所 名古屋別院本堂下広間・大鐘

内容 東日本大震災追弔法要&勿忘の鐘&語り合い

清澤委員長が切なる願いが込められた表白文を読み、会員一人ひとりが、出あった人、場に思いを馳せてお勤めしました。法要後、大鐘に移動し、「勿忘（わすれな）の鐘」を撞き、14:46に東北の空を仰ぎ、静かに手を合わせました。昨年同様、愛知県在住の福島原発事故被害者の団体「あゆみ R.P.Net」の岡本副代表にもご参加いただき、厳粛な時間を過ごしました。

その後、震災以降を会員で語り合いました。

自分の気持ちを聞いてもらえる仲間と時間、とてもとてもありがたい。一人では気付けない、一人では進めない。一人では喜べない。心からそう思います。震災というご縁をいただかなければ、私という人間は他者を排し、個人的な狭い世界で生きていたと思います。

人として生きる悲しみ、そして生まれた意義を求め続ける仲間と出あい、認め合う世界の一員となった喜びにあらためて胸が熱くなりました。しかし同時に、そのようなご縁を通さなければ大切なことに気づくこともなく、向き合おうともしない私という人間の愚かさに胸がズキズキします。ごめんなさいね。それでも生きていきたい。つながりたい。帰りたい。これからも一歩ずつ歩んでまいります。

南無阿弥陀仏

大河内真慈

【震災より4年を迎えるにあたって仮設住宅への線香・ローソク配りと念珠作り】

日時 2015年3月5日～7日（泊3日）

場所 宮城県宮城郡七ヶ浜町内仮設住宅

- 内容 ①震災から4年眼を迎えるため、仮設住宅（合計320軒）に線香、ローソクを配りながら今の仮設生活について話を聞く。
②念珠作り、ヨガ、マッサージ、話したりくつろげるスペースを提供する。
③毎回訪ねている仮設商店街の佐藤魚店のおばあちゃんに会う。



現地で支援活動を行ってきたレスキューストックヤードの松永さんによると、復興支援住宅や公営住宅へ移る人と仮設住宅に残る人に温度差が出てきたとのこと。仮設を出る人はどこに住むとか、いくらかかったという話で希望を持って話しているが、先の見えない仮設住宅に残る人には話の輪にも入れないのです。来年の5月に今ある仮設住宅の統廃合が行われ、2つ、3つの仮設に集められる。今までは七ヶ浜の7つの浜ごとの派閥が分かれていたが、仮設が寄せ集められるとまた新しい近所付き合いが始まる。私たちのようなイベントで仲良くなる上で必要とのことでした。



いつもおじゃましてる佐藤魚店のおばあちゃん。



一緒に作ったお念珠で。



仮設の方から電話。「いつも線香とろうそくをいただくのでお礼につるし難を渡そうと作って待っていた」とのこと。やって良かったなと思ひ、また来ますねと分かれました。

【全戦争犠牲者追弔法要での“すいとんの炊きだし” & 募金活動】

日時 2015年3月12日（木）

場所 名古屋別院

内容 炊きだしの練習として「すいとん」を参詣者へ提供

3月12日（木）の名古屋別院全戦争犠牲者追弔法要にあわせて、炊きだしの練習の一環として昔懐かしい「すいとん」を参詣のみなさまに提供し振る舞いしました（わずかな塩味をつけたネギとすいとんだけの昔風すいとん約50食、具沢山の今風すいとん約150食）。



予定の提供時間1時間ももたず、なんと30分経たずに無くなってしまいました。たくさんの方に「おいしいよ！」「昔を思い出すね」と召し上がっていただき、提供した私たちもほっこりとした気持ちになりました。ありがとうございました！初めてのすいとん炊きだしでしたので反省点もありましたが、でらぼうの新たな炊きだしメニューが一つ増えました！

ご参詣のみなさまに支援活動の募金もたくさんお預かりしました。お一人おひとりの、募金に込められた願いを忘れず、生きた支援金として活用させていただきます。

最後に厨房施設からテント設営など、お力をお貸しいただきました名古屋別院さま、誠にありがとうございました。

大河内真慈